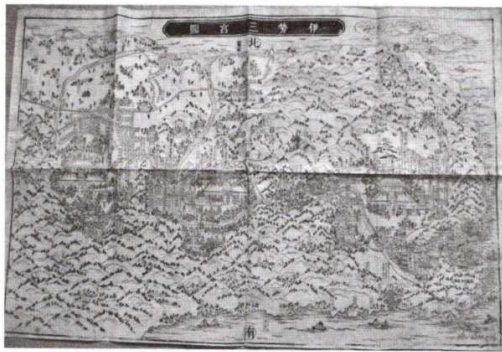


# 随 筆

## 一枚の古地図物語り

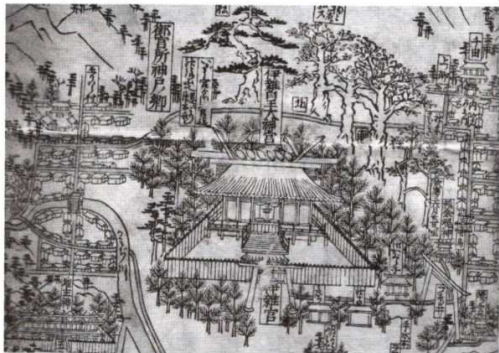
飯 田 良 樹 (久居一志地区)

伊勢三宮図と摺られた江戸時代の地図 (60cm×90cm) が手に入った。



伊勢三宮とは？伊勢は内宮外宮の二宮ではないのかなと思ひ、古地図をよく見ると、外宮、内宮と並んで右側に伊雑宮が摺られていた。

外宮の社には豊受大神宮、内宮は天照皇太神宮、伊雑宮は伊雑皇大神宮と摺られている。



志摩市磯部の伊雑宮は、内宮の別宮で天照大御神を奉り、毎年6月24日(6月月次祭当日)に行われる御田植式が有名な宮ではないか、何故、内宮外宮と同列に表記されているのか疑問が湧いた。

伊勢三宮で検索をかけると、神戸三宮(さんのみや)の他に、「伊勢三宮説」が表示された。

「伊勢三宮説」(ブログ: 摂津三島からの古代史探訪) をみてみると、大宝令では伊雑神戸(神戸は神社の収入源となる民戸)は志摩国司に属していたが、律令制が緩んできて、「総検校職」が

これに代わり、的矢氏がこの職にあたった。

戦国期になると、的矢氏が衰え、九鬼嘉隆が神社領から武家領にしてしまう。伊雑宮に奉仕していた神人と磯部郷民たちは宮の管理の費用に困り、1625年に幕府に上訴しようとしたが九鬼守隆に見つかり、神人50余名が神島へ流刑された。

守隆が亡くなると、幕府に繰り返し訴えたが、磯部を神領に戻すと、豊かな石高が得られなくなる鳥羽藩の意向で幕府より回答がなかなか得られなかった。

1652年には朝廷にも訴えたが、望む回答は得られなかった。そこで神人達が取った策が、伊雑宮を尊重なる神社と宣伝する事で、1658年の朝廷への上申では、「伊雑皇大神宮は日本最初の宮で、のちに内宮ができ、次いで外宮が遷座した」と述べ、その後、伊勢三宮説を創案した。それを補強する為、1662年には「伊雑宮旧記」なる古びた古文書の体裁で書物を偽作者につくらせる。さすがに内外両宮も見過ごせなくなり、朝廷の裁決によって伊雑宮は内宮の別宮と定められた。神人達はこれにも不満で、将軍家綱公へ直訴したが、結果は主だった神人47名が伊勢・志摩両国から追放された。

1679年に江戸で伊雑の神人達が、当時有名だった神道家、儒者、僧侶に3千両という大金で、伊勢三宮説と伊雑宮の優位性を執筆させた40巻の「旧事大成経」が刊行される。学者のなかにこの書を信奉するものが多く出る。幕府は治安上問題と判断し、1683年、版行の書と版木の廃却を命じ、関係者は流刑・追放に処せられ、ここに50年に及ぶ一連の事件(伊雑宮寛文事件)の幕が閉じたが、神人の子孫たちは、廃藩置県の明治4年まで、神領再興の機会を常にうかがっていたと前記のブログに表示されていた。

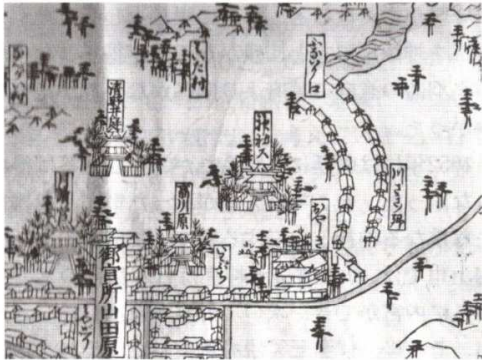
このような経緯をもつ地図ではないかと。

以前、親交を持つ千枝大志氏に、寛文10年(1671年)に山田で大火事が起き(山田大火)、山田町内の

227か寺が被災する、この火災から世義寺は免れたが、外宮宮域に近すぎるとして山田奉行所が金子900両を給付し移転を命じ、現在地である瀧浪山へと移転した。山田の地図をみて、外宮の横に世義寺があれば、寛文以前の地図と判断出来ると教えていただいていた。

この古地図のお寺は常明寺のみ記載されていて世義寺はない。残念ながら、寛文事件時に作製されたとは同定できない。

もう一度古地図を見てみると、神宮と同じ大きさの文字で御宮所山田原、御宮所宇治里、御宮所神戸ノ郷があった。御宮所神戸ノ郷には伊雑宮皇大神宮があり、神人が訴える大宝律令時の伊雑神戸を強調しているようにみえる。



また、御宮所山田原には「おやしき」が記載されている。「おやしき」は奉行所で、慶長8年(1603年)、幕府は度会郡有滝村に「山田奉行所」を置き、山田には奉行の下代や奉行自身が、地理的便宜上それぞれの役所(曾祢高柳・等観寺・欣浄寺)を置き、出張して裁断を行った。外宮・内宮両大神宮の警固はもちろん、伊勢湾・南海での異国不審船の取締りや伊勢志摩神領以外も支配したが、最重要任務は「二十一年目御遷宮奉行」を取り仕切る任務であった。その後、山田一本木町(吹上)の役所に固定する。寛永12年(1635年)、伊勢国度会郡小林(現・伊勢市御菌町小林)に移転するので、寛永12年以前に書かれた古地図か? それとも奉行所跡を「おやしき」と記載したのか? 明治2年刊と推測される「渡會河内明細図」には山田は御屋敷、小林は屋敷となっているので、もう少し研究の余地がある。

普通はこのような古地図には刊行年月日と刊行書院の名が記載されているものである。これは、あくまで私の推論であるが刊行に対して、幕府や神宮への恐れのために記載されなかったのではな

いかと。

長々と書きましたが、一枚の古地図を入手すると、色んな事を推測して余生を楽しんでいるこの頃です。

#### 追記

ある資料館が預かっている色彩大絵図「伊勢二社三宮図絵」には世義寺があり寛文10年以前と思われる。また、津市図書館が収蔵している「伊勢二社三宮図絵」には文政10年伊雑宮神庫秘蔵を写したものを写すと書かれ、私欲で人を欺く恐るべき物と書かれた付箋がついている。西尾市岩瀬文庫に彩色「伊勢二社三宮図絵」があり、注釈に伊勢両宮と志摩国の諸神社と村落の配置を主眼とした絵地図。上が北。刊行時の手彩色あり、山は緑色、道は朱色、村は黄色。山や樹木、名所の岩等の絵あり。『旧事大成経』等を通して近世前期に盛んに唱えられた、伊雑宮の優越を主張する「三宮二社説」に基づく図で、「磯宮」(伊雑宮)を中心に据える。この図を見ると外宮近くに開寺(世義寺)がある。

山田奉行所記念館 辻村修一氏にいろいろとご助言を頂きました。ありがとうございました。

#### 参考文献

- 「第四章 伊雑宮寛文事件の顛末」『磯部郷土史』1963 磯部郷土史刊行会
- 「第七節 伊雑宮 寛文事件」『磯部町史 上巻』1997 磯部町
- 「第二節 山田奉行所の設置と統治」『伊勢市史第三巻 近世』2013 伊勢市
- 「伊勢神宮1 内宮別宮—伊雑宮～伊勢三宮説出現の経緯」ブログ：摂津三島からの古代史探訪